

都市再生整備計画 事後評価シート
府中地区

令和8年5月広島県府中市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	広島県		市町村名	府中市		地区名	府中地区		面積	179ha	
交付期間	令和3年度～令和7年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	2,228.3百万円	国費率	0.380		
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路[(市)横井府中学園線整備事業、(市)土生元町線整備事業]、公園[こどもの国公園整備事業]、地域生活基盤施設[こどもの国河川敷整備事業、道の駅広場整備事業、図書館広場整備事業、図書館駐車場整備事業、文化センター耐震改修事業]、高質空間形成施設[府中8号線外整備事業]								
		提案事業	事業活用調査[事後評価]								
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設[まちなか案内板整備事業]	削除/追加の理由	こどもの国や道の駅広場等、それぞれの基幹事業内で一部整備を行い、エリア全体としては府中駅周辺整備の際に併せて整備する方針に変更し、次期整備計画で実施するため削除する。						
		提案事業	地域創造支援事業[文化センター外構改修工事]	削除/追加の理由	文化センター耐震改修事業を実施するなかで、既存の外構の活用に支障がないと判断し事業項目から削除する。						
	新たに追加した事業	基幹事業	なし	削除/追加の理由	-						
		提案事業	地域創造支援事業[健康増進施設整備事業]	削除/追加の理由	整備計画や発注方式(PFI等)が未確定だったため提案事業に位置付けられなかったが、DB方式で市事業として実施する方針が確定し、施設機能の方向性も明確になったため、関連事業から提案事業への変更により追加する。						
	交付期間の変更	当初	-	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	-						
変更	-										

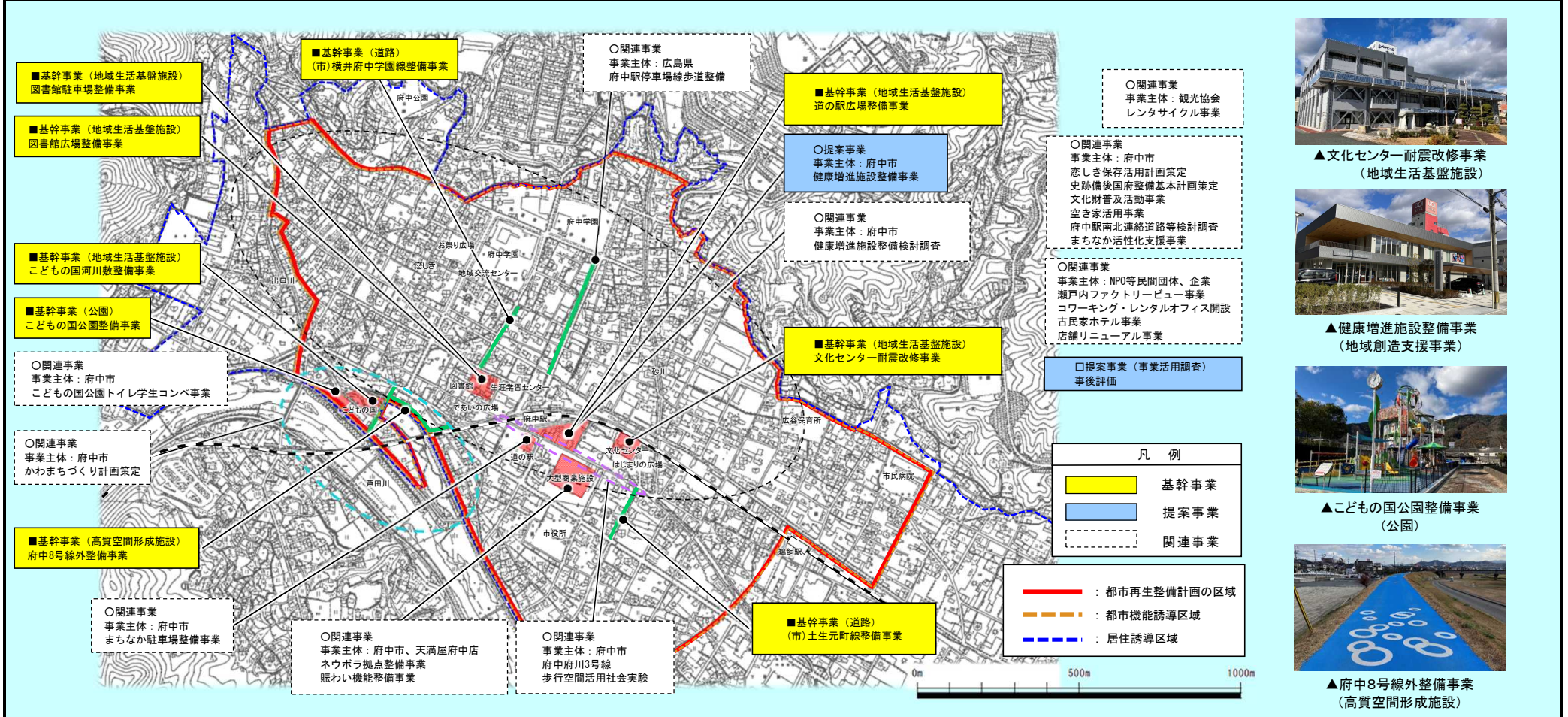
2) 都市再生整備計画に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み		効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	あり	なし					
指標1	通りの歩行者数(休日)	人/日	1,699	R1	2,600	R7	-	2,140	△	あり		通りの歩行者数(休日)は、施設等が整備され回復傾向にあったものの、居住人口の減少や未完成事業が原因となって目標未達成となった。 目標達成している平日と同様の増加傾向であるため、目標値設定が過大であったことが考えられる。他調査地点では増加がみられるため、今後周辺施設と連携することにより増加につながると考えられる。	令和9年10月	
										なし	●			
指標2	通りの歩行者数(平日)	人/日	1,971	R1	2,300	R7	-	2,417	○	あり	-	通りの歩行者数(平日)は、アクセス道路、拠点施設が整備されたことが主な要因となって目標を達成した。 休日同様、人口減少や未完成事業があるものの、SPINGLE ウェルネスセンターの開業や、児童生徒や学生等の「i-coreFUGHU」への立ち寄りが歩行者数増加に寄与したと考えられる。	令和9年10月	
										なし	-			
指標3	ぐるっとバス(市内循環バス)の平均利用者数	人/日	93	R1	132	R7	-	80	×	あり		ぐるっとバスの平均利用者数は、新型コロナウイルスの影響で大幅に減少し、その後は回復傾向にあるものの、未だ新型コロナウイルス感染症流行前の状況までは回復していないことに加え、依然として自家用車利用者が多く、公共交通の利用にはつながらなかったことが主な原因となって目標未達成となった。	令和9年4月	
										なし	●			
指標4	道の駅来場者数	人/年	143,024	R1	188,000	R7	-	155,824	△	あり		道の駅来場者数は、新型コロナウイルスの影響により市の観光客が減少し、道の駅の効果が十分に発揮されなかったことが主な原因となって目標未達成となった。	令和9年4月	
										なし	●			
指標5	拠点施設(賑わい施設)利用者数	人/年	272,510	R1	310,000	R7	-	331,951	○	あり	-	拠点施設利用者数は、こどもの国に大型複合遊具が整備されたことや、SPINGLE ウェルネスセンターの開業により利用者が大幅に増加したことが主な要因となって目標を達成した。	令和9年4月	
										なし	-			

3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指標		従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の 数値指標1	なし											
4) 定性的な効果 発現状況	<p>【賑わい創出、地域の活性化に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イベント、市民活動の実施 ・府中まちなか繁盛隊(市民商業団体) ・府中市内広域で商業活性化活動を展開しており、地元密着型の団体として様々なイベントやセミナー等を実施するなど、市内の賑わいづくりに積極的に取り組んでいる。 ○学校×地域連携の取組 ・I project meeting: 学生主体のワークショップ ・府中市が主催するワークショップ型教育プログラムで、市内の小中高生が自分がやりたいことを考え、話し合いながら形にする力を育てる取組であり、近年では、中心市街地をフィールドとした「i-coreFUCHU」でのイベントや公民館の活用等について取り組まれている。 <p>【移住・定住に繋がる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○空き家の利活用 ・空き家バンク: 空き家を登録・公開し、移住や定住を希望する方の活用に繋げている。 ・空き家リバイバルプロジェクト: 空き家を交流施設や体験拠点等へ再生することを支援している。 ・広島型ランドバンク事業: 県は、空き家や空き地をまとめて整備・再活用し、市街地の居住性を向上させる取り組みを実施しており、府中市はそのモデル地区に選定されている。 ○移住サポート制度(ふふふちゅう) ・お試し住宅: 府中市の暮らしを体験しながら移住の検討や伝統産業に触れることが出来る施設が整備され、市の伝統産業である府中家具が備わった住宅で1泊2日から最大14日間の移住体験ができる。 ・一時預かり: 府中市への移住を検討する際、現地調査や住宅物件を見学したい、という時に子どもを預けることができる。 ・チャレンジファーム広島・上下農場: 府中市に在住または移住し、就農する方に対して、農地の貸し出し、ハウス資材費への補助金、生活費の支援などを実施し、サポートしている。 												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング			-				-					
	官民連携による 取組			■記載し実施済み 株式会社天満屋ストアから府中市に2階約4,300㎡が無償で寄付され、「賑わい機能整備事業」として整備が進められ、「i-coreFUCHU」が設立した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	・引き続き、i-coreFUCHUにおいて、若者、女性、子育て世代を中心に幅広い世代が過ごせる新たな交流拠点として市民の利用を促す。 ・今後も各種事業に市民意向を反映するため、官民連携の機会を積極的に提供する。
				■記載はないが実施済み こどもの国公園整備の一環として、公衆トイレを新築計画する設計コンペを国内の建築学生を対象に実施し、実際に令和5年3月に最優秀を受賞した作品が完成した。				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●	
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					
	持続的なまちづくり 体制の構築			■記載し実施済み NPO法人府中ノアンテナでは、府中市の地域資源を発掘し、情報発信やネットワークづくりを通じて、地域を活性化する取組を現在まで継続的に実施。また、地域の既存の魅力を当法人の強みであるデザインや企画の力で編集し、市内外の人に発信している。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	・引き続き、NPO府中ノアンテナが主体となって、地域の既存の魅力をデザインや企画の力で編集し、市内外の人に発信することで、まちが生まれ変わるきっかけづくりに取り組む。 ・南宮台団地で設立された市民団体を支援し、市民主導のまちづくりを推進する。
■記載はないが実施済み 南宮台団地の住民を対象に当該団地が直面する人口減少、少子高齢化、担い手不足等の課題に向き合い、将来に向けてやるべきことやこれからの団地のまちづくりについてワークショップを実施した。住民ひとりひとりが南宮台団地のこれからは自分事として捉える意識醸成に繋がった。				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●					
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-									

様式2-2 地区の概要

府中地区(広島県府中市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価	目標値	評価	従前値	目標値
目標1: 多様な世代にとって、安心・快適な生活環境の充実 目標2: 市民や来訪者が交流・活動できる、アクティブ空間の創出 目標3: 回遊と賑わいを生む、質の高い道路空間の確保	通りの歩行者数(休日)	人/日	1,699	R1	2,600	R7	2,140	R7
	通りの歩行者数(平日)	人/日	1,971	R1	2,300	R7	2,417	R7
	ぐるっとバス(市内循環バス)の平均利用者数	人/日	93	R1	132	R7	80	R7
	道の駅来場者数	人/年	143,024	R1	188,000	R7	155,824	R7
	拠点施設(賑わい施設)利用者数	人/年	272,510	R1	310,000	R7	331,951	R7



<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■生活環境の更なる向上 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が途中段階であるため、引き続き整備を進める必要がある。 ・本市内人口は減少し、それに伴い空き家が増加傾向にあることから、引き続き、移住・定住の促進や空き家の利活用に取り組んでいく必要がある。 ・本市の中心市街地では、空き家に加え、狭小な宅地や狭あい道路が点在しており、不動産価値向上に向けた区画再編が必要である。 ■人々の交流・活動の場の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅来場者数は、コロナ禍以後、徐々に回復しているものの、コロナ禍以前の水準まで戻っていないため、引き続き拠点・観光施設として利用を促す必要がある。 ・商店街等で空き店舗は依然として多く、中心市街地活性化に向けて対策が必要である。 ・これまで駅南エリアを中心に施設整備を行ってきたが、個々の施設運営だけでなく、各施設の連携や活用を官民一体のエアーマネジメント的取組として行い、賑わいの波及に努める必要がある。 ■地区内の回遊性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・府中駅の北側と南側が分断されており、回遊性向上のため、交通結節点として駅機能の強化が必要である。 ・バスの利用者数は、コロナ禍以後、徐々に回復しているものの、コロナ禍以前の水準まで戻っておらず、市民の多くが自家用車利用であることが考えられ、区域内の回遊性を促すためにも、公共交通の利用促進に取り組んでいく必要がある。
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■生活環境の更なる向上 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設の利用促進 ・図書館広場・駐車場整備の実施 ・空き家の利活用の促進 ・移住定住の促進 ・区画再編の促進 ■人々の交流・活動の場の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による地域の活性化 ・府中市らしい情報発信 ・地域活性化に向けた空き店舗等の利活用促進 ・府中駅を中心としたまちの魅力向上 ■地区内の回遊性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・周辺拠点施設との連携強化 ・府中駅南北の連携強化 ・公共交通の利用促進

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標:拠点施設(賑わい施設)利用者数 従前値 227,212人 目標値 230,000人	指標:拠点施設(賑わい施設)利用者数 従前値 272,510人 目標値 310,000人	賑わいの拠点となる健康増進施設は、年間8万人の利用者数を見込んでおり、近隣施設の利用者数が大幅に増えることが見込まれるため。
D. その他(区域)		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(市)横井府中学園線整備事業	98.0	L=225m、W=11m	79.5	L=225m、W=11m	事業費の年度割変更 事業費の精査	事業内容に変更がないため、指標への影響は生じない。	●	
道路	(市)土生元町線整備事業	77.0	L=175m、W=11m	55.4	L=175m、W=11m	事業費の年度割変更 事業費の精査	事業内容に変更がないため、指標への影響は生じない。	●	
公園	こどもの国公園整備事業	255.0	2,600㎡	235.0	2,600㎡	事業費の精査	事業内容に変更がないため、指標への影響は生じない。	●	
古都保存・緑地保全等事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	こどもの国河川敷整備事業	64.0	4,300㎡	72.5	4,300㎡	事業費の年度割の変更 事業実施年度の変更 事業費の精査	事業内容に変更がないため、指標への影響は生じない。	●	

地域生活基盤施設	道の駅広場整備事業	446.0	4,800㎡	164.0	1,162㎡	事業費の年度割変更 事業費の精査 道の駅広場の面積を健康増進施設整備に伴い変更	事業内容に変更がないため、指標への影響は生じない。	●	
地域生活基盤施設	図書館広場整備事業	197.0	960㎡	156.7	960㎡	事業費の年度割変更 事業費の精査	事業内容に変更がないため、指標への影響は生じない。		●
地域生活基盤施設	図書館駐車場整備事業	24.0	450㎡	24.1	450㎡	事業費の年度割変更 事業費の精査	事業内容に変更がないため、指標への影響は生じない。		●
地域生活基盤施設	文化センター耐震改修事業	270.0	7,201㎡	489.0	7,201㎡	事業費の年度割変更 資材高騰に加え、詳細な設計を行うにあたり事業費を増額	事業内容に変更がないため、指標への影響は生じない。	●	
地域生活基盤施設	まちなか案内板整備事業	20.0	10箇所	-	-	こどもの国や道の駅広場等、それぞれの基幹事業内で一部整備し、エリア全体としては府中駅周辺整備の際に併せて整備する方針に変更し、次期整備計画で実施するため削除する。	事業効果は変わらないため、指標への影響は生じない。	-	-
高質空間形成施設	府中8号線外整備事業	75.0	L=490m、W=4m	79.4	L=490m、W=4m	事業実施年度の変更 事業費の精査	事業内容に変更がないため、指標への影響は生じない。	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
住宅街区整備事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	健康増進施設整備事業	-	-	869.7	-	整備計画が明確になったことで、関連事業から地域創造支援事業へ追加。	賑わいの拠点となる健康増進施設は、年間8万人の利用者数を見込んでおり、近隣施設の利用者数が大幅に増えることが見込まれるため、指標5:拠点施設(賑わい施設)利用者数の従前値・目標値を上方修正。	●	
地域創造支援事業	文化センター外構改修事業	40.0	-	-	-	文化センター耐震改修事業を実施するなかで、既存の外構の活用に支障がないと判断し事業項目から削除。	事業効果は変わらないため、指標への影響は生じない。	-	-
事業活用調査	事後評価	3.0	-	3.0	-	-	-		●
まちづくり活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
府中駅停車場線歩道整備		府中駅停車場線	80.0	80.0	R2-R3	R2-R3	実施済	
かわまちづくり計画策定		芦田川河川敷	0.0	0.0	R3-R4	R3-R4	未実施	
まちなか駐車場整備事業			75.0	75.0	R5-R5	R5-R5	実施済	
こどもの国公園トイレ学生コンペ事業		こどもの国公園	3.0	3.0	R3-R3	R3-R3	実施済	
恋しき保存活用計画策定		恋しき	1.0	1.0	R3-R4	R3-R4	実施済	
史跡備後国府整備基本計画策定			8.0	8.0	R3-R4	R3-R4	実施済	
文化財普及活動事業			10.0	10.0	R3-R7	R3-R7	実施済	
健康増進施設整備検討調査			0.0	0.0	R3-R3	R3-R3	実施済	
空き家活用事業			-	-	R3-R7	R3-R7	実施済	
府中駅南北連絡道路等検討調査		府中駅	0.0	0.0	R3-R4	R3-R4	実施済	
まちなか活性化支援事業			5.0	5.0	R3-R7	R3-R7	実施済	
府中府川3号線歩行空間活用社会実験		府中府川3号線	5.0	5.0	R3-R5	R3-R5	実施済	
瀬戸内ファクトリービュー事業			-	-	R3-R7	R3-R7	実施済	
コワーキング・レンタルオフィス開設			-	-	R3-R7	R3-R7	未実施	
古民家ホテル事業			-	-	R3-R7	R3-R7	未実施	
店舗リニューアル事業			-	-	R3-R7	R3-R7	実施済	
レンタサイクル事業			-	-	R3-R7	R3-R7	実施済	
ネウボラ拠点整備事業			2.0	20.0	R2-R3	R2-R3	実施済	
賑わい機能整備事業			410.0	410.0	R3-R4	R3-R4	実施済	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	数値(エ)	数値(エ)	数値(エ)	目標達成度※2	あり	なし				
指標1	通りの歩行者数(休日)	人/日	-	-	1,699	R1	2,600	R7	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定		2,140	事後評価	△		●
指標2	通りの歩行者数(平日)	人/日	-	-	1,971	R1	2,300	R7	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定		2,417	事後評価	○		-
									見込み	●						

指標3	ぐるっとバス(市内循環バス)の平均利用者数	人/日	府中ぐるっとバス利用者の1日当たりの平均利用者数により算出。 令和7年度の利用者を算出するためには、令和7年4月～令和8年3月のデータが必要となるが、計測時期が令和7年11月であるため、12月～翌年3月の利用者数については、令和元年度から令和6年度の実績値(各月平均利用者数)を基に算出し、令和7年度11月までの実績に追加することで、評価値(見込み値)とする。	54	H27	93	R1	132	R7	モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定		80	事後評価	×
指標4	道の駅来場者数	人/年	道の駅「びんご府中」の年間利用者数により算出。 令和7年度の来場者数を算出するためには、令和7年4月～令和8年3月のデータが必要となるが、計測時期が令和7年10月であるため、11月～翌年3月の来場者数については、令和元年度から令和6年度の実績値(各月平均来場者数)を基に算出し、令和7年度11月までの実績に追加することで、評価値(見込み値)とする。	-	-	143,024	R1	188,000	R7	モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定		155,824	事後評価	△

指標5	拠点施設(賑わい施設)利用者数	人/年	<p>図書館利用者(貸出数)、ジーベックホール(文化センター)利用者数(各部屋貸出履歴からの推計数)、TAM利用者数(延べ利用者数)、こどもの国(児童館)利用者数、市民プール利用者数により算出。</p> <p>■図書館利用者数 令和7年度の利用者を算出するためには、令和7年4月～令和8年3月のデータが必要となるが、計測時期が令和7年10月であるため、令和7年度4月～10月の実績値より1月あたりの平均利用者数を算出し、それを12か月分に換算することで、評価値(見込み値)とする。</p> <p>■ジーベックホール利用者数、TAM利用者数、こどもの国(児童館)利用者数、市民プール利用者数 令和7年度の利用者を算出するためには、令和7年4月～令和8年3月のデータが必要となるが、計測時期が令和7年11月であるため、令和7年度4月～11月の実績値より1月あたりの平均利用者数を算出し、それを12か月分に換算することで、評価値(見込み値)とする。</p>	-	-	272,510	R1	310,000	R7	モニタリング		モニタリング		-	-
				事後評価	確定	331,951	事後評価	○	見込み ●						

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	府中駅南地区賑わい拠点、地域活動拠点を結ぶ主要な通り(府中駅南通りの4か所)における休日の1日あたりの自転車・歩行者数を計測した結果、1,593人/日となった。令和7年の計測時点で都市再生整備事業が全て完了していないことを踏まえ、評価値を令和元年～令和6年までの実績値から近似式で推計すると、2,140人/日となり、目標値2,600人/日を下回った。一方で、従前値1,699人/日を上回っていることから改善が見られると判断し、目標達成度は「△」とする。 計測時点である令和7年10月時点で完成していない事業もあり、今後事業効果が歩行者数にも反映されることが予想されるが、効果が広く浸透するには時間がかかるため、1年以内の達成見込みは「無」と判断する。	令和7年の計測時に歩行者数が減少した原因は、調査日の天候が悪く、TAMや図書館といった拠点施設が休館日であったことで、外出控えが発生したことが考えられる。目標未達成の原因は、目標値の設定が過大であったことや、居住人口の減少(都市再生整備計画区域内(府中町・出口町・元町・府川町)の人口は令和元年:7,464人から令和7年:6,506人に減少(減少率は約13%))が考えられる。 SPINGLEウェルネスセンター(市民プール)やi-coreFUCHU等の施設と連携することで、今後、周辺の歩行者数増加につながると考えられる。
指標2	府中駅南地区賑わい拠点、地域活動拠点を結ぶ主要な通り(府中駅南通りの4か所)における平日の1日あたりの自転車・歩行者数を計測した結果、2,283人/日となった。令和7年の計測時点で都市再生整備事業が全て完了していないことを踏まえ、評価値を令和元年～令和6年までの実績値から近似式で推計すると、2,417人/日となり、目標値2,300人/日を上回ったため目標達成度は「○」とする。	平日歩行者数は休日同様に増加傾向であり、令和7年度の調査地点別の傾向を見ると、府中駅付近は従前値から増加している。 居住人口の減少下であるが、目標達成した要因はi-coreFUCHUが整備されたことで、平日の放課後に児童生徒や学生が立ち寄りする場所が生まれ、歩行者数増加に寄与したと考えられる。
指標3	府中ぐるっとバス利用者の1日当たりの平均利用者数を算出した結果、80人/日となり目標値132人/日を下回った。また、従前値93人/日も下回っているため目標達成度は「×」とする。 計測時期である令和7年11月時点で完成していない事業もあり、運行ルート再編等の対策ともあわせて、今後事業効果がぐるっとバス利用者数にも反映されることが予想されるが、新型コロナウイルス感染症流行前には回復するにはまだ時間がかかるため、1年以内の達成見込みは「無」と判断する。	自家用車利用が依然として多いなかで、平成30年度までは増加傾向だったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度末から減少し、未だに以前の利用者数まで回復していないと考えられる。 府中ぐるっとバスは、市役所や道の駅びんご府中、こどもの国などの主要施設や住宅地を結び、市民にとって欠かせない交通手段となっている。現在、公共交通の利便性向上のため、令和7年度に府中市地域公共交通活性化協議の承認を経て、令和8年度より運行ルート再編、ダイヤの改正を予定している。また、令和6年4月より低炭素社会実現に貢献するため、備後圏域では初となる小型EVバス(電気バス)を導入した。
指標4	道の駅「びんご府中」の年間利用者数を算出した結果、155,824人/年となり目標値188,000人/年を下回った。一方で、従前値143,024人/年を上回っていることから改善が見られると判断し、目標達成度は「△」とする。 計測時期である令和7年10月時点で完成していない図書館広場・駐車場整備事業や、令和7年に開業したSPINGLE ウェルネスセンター等の近隣施設整備により、道の駅へ立ち寄りするきっかけが生まれ、今後事業効果が道の駅来場者数にも反映されることが予想される。一方で、効果が広く浸透するには時間がかかるため、1年以内の達成見込みは「無」と判断する。	新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度末に観光客数が減少し、近年は回復傾向にあるものの、目標達成に至るまでの増加がなかったためと考えられる。
指標5	拠点施設(賑わい施設)利用者数を算出した結果、331,951人/年となり目標値310,000人/年を上回ったため目標達成度は「○」とする。	新型コロナウイルス感染症の影響により減少したものの、こどもの国の整備やSPINGLE ウェルネスセンターの開業により、利用者数増加につながったと考えられる。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	なし						モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

【賑わい創出、地域の活性化に向けた取組】

○イベント、市民活動の実施

- ・府中まちなか繁盛隊(市民商業団体)

府中市内広域で商業活性化活動を展開しており、地元密着型の団体として様々なイベントやセミナー等を実施するなど、市内の賑わいづくりに積極的に取り組んでいる。

○学校×地域連携の取組

- ・I project meeting: 学生主体のワークショップ

府中市が主催するワークショップ型教育プログラムで、市内の小中高生が自分がやりたいことを考え、話し合いながら形にする力を育てる取組であり、近年では、中心市街地をフィールドとした「i-coreFUCHU」でのイベントや公民館の活用等について取り組まれている。

【移住・定住に繋がる取組】

○空き家の利活用

- ・空き家バンク: 空き家を登録・公開し、移住や定住を希望する方の活用に繋げている。
- ・空き家リバイバルプロジェクト: 空き家を交流施設や体験拠点等へ再生することを支援している。
- ・広島型ランドバンク事業: 県は、空き家や空き地をまとめて整備・再活用し、市街地の居住性を向上させる取り組みを実施しており、府中市はそのモデル地区に選定されている。

○移住サポート制度(ふふふちゅう)

- ・お試し住宅: 府中市の暮らしを体験しながら移住の検討や伝統産業に触れることができる施設が整備され、市の伝統産業である府中家具が備わった住宅で1泊2日から最大14日間の移住体験ができる。
- ・一時預かり: 府中市への移住を検討する際、現地調査や住宅物件を見学したい、という時に子どもを預けることができる。
- ・チャレンジファーム広島・上下農場: 府中市に在住または移住し、就農する方に対して、農地の貸し出し、ハウス資材費への補助金、生活費の支援などを実施し、サポートしている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した	-	
	予定したが実施できなかった (理由)	-	

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
i-coreFUCHUの設立	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年の府中天満屋の改修に合わせて、株式会社天満屋ストアから府中市に2階約4,300㎡が無償で寄付され、「賑わい機能整備事業」として整備。 若者、女性、子育て世代を中心に幅広い世代が憩い、学び、挑戦する中で新しい発想や出会いを創出するというコンセプトのもと、市運営による「i-coreFUCHU」が令和3年7月に設立。 子育て支援施設、学習スペース、イベント空間、カフェなどが整備され、幅広い世代が過ごせる府中市の新たな交流拠点として市民に利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、i-coreFUCHUにおいて、若者、女性、子育て世代を中心に幅広い世代が過ごせる新たな交流拠点として市民の利用を促す。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
ひろしま建築学生チャレンジコンペ2021@びんごふちゅう	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> こどもの国公園整備の一環として、公衆トイレを新築計画する設計コンペを国内の建築学生を対象に実施し、実際に令和5年3月に最優秀を受賞した作品が完成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も各種事業に市民意向を反映するため、官民連携の機会を積極的に提供する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
NPO法人府中ノアンテナ	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の魅力を一緒にさがし、つくり、とどける」という理念のもと、府中市の地域資源を発掘し、情報発信やネットワークづくりを通じて地域を活性化する取組を現在まで継続的に実施。 	NPO法人府中ノアンテナ (平成23年設立)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、NPO府中ノアンテナが主体となって、地域の既存の魅力をデザインや企画の力で編集し、市内外の人に発信することで、まちが生まれ変わるきっかけづくりに取り組む。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
府中市南宮台団地でのワークショップ	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> 南宮台団地の住民を対象に当団地が直面する人口減少、少子高齢化、担い手不足等の課題に向き合い、将来に向けてやるべきことやこれからの団地のまちづくりについてワークショップを実施。 	府中市南宮台団地でのワークショップ (令和6年より開催)	<ul style="list-style-type: none"> 南宮台団地で設立された市民団体を支援し、市民主導のまちづくりを推進する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内意見照会の実施	企画財政課、地域づくり課、スポーツ振興課、子育て応援課、商工観光課、土木課、教育政策課	令和8年3月	都市デザイン課(都市再生整備計画主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標2		指標5	
		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路:(市)横井府中学園線整備事業	△	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備や、図書館までのアクセス道路である横井府中学園線が歩行者計測時は未完成であり、今後さらなる歩行者数増加が期待できると考え『△』	△	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が集計期間に完成しておらず、今後さらなる増加が期待できると考え『△』
	道路:(市)土生元町線整備事業	○		○	
	公園:こどもの国公園整備事業	○		○	
	地域生活基盤施設:こどもの国河川敷整備事業	△		△	
	地域生活基盤施設:道の駅広場整備事業	○		○	
	地域生活基盤施設:図書館広場整備事業	△		△	
	地域生活基盤施設:図書館駐車場整備事業	△		△	
	地域生活基盤施設:文化センター耐震改修事業	○	・土生元町線など調査地点の周辺における、歩道の整備により安全安心な歩行者ネットワークが整備されたことで、歩行者数増加に間接的に貢献したと考え『○』	○	・拠点施設であるこどもの国内の「大型複合遊具(こどもの国公園整備事業)」や、JR府中駅周辺とこどもの国を結ぶ道「ボムこみち(府中8号線外整備事業)」が完成したことが直接的に貢献したと考え『○』
提案事業	地域創造支援事業:健康増進施設整備事業	○		○	
	事業活用調査:事後評価	—		—	
関連事業	府中駅停車場線歩道整備	○		○	
	かわまちづくり計画策定	—		—	
	まちなか駐車場整備事業	○		○	
	こどもの国公園トイレ学生コンペ事業	○	・「SPINGLE ウェルネスセンター(健康増進施設整備事業)」や「i-coreFUCHU(ネウボラ拠点・賑わい機能整備事業)」が開業したことで来訪者が増加し、回遊を促すきっかけに寄与し、歩行者数増加に間接的に貢献したと考え『○』	○	・拠点施設である「SPINGLE ウェルネスセンター(健康増進施設整備事業)」が開業したことが直接的に貢献したと考え『○』
	恋しき保存活用計画策定	○		○	
	史跡備後国府整備基本計画策定	—		—	
	文化財普及活動事業	—		—	
	健康増進施設整備検討調査	○		○	
	空き家活用事業	○		○	
	府中駅南北連絡道路等検討調査	○		○	
	まちなか活性化支援事業	○		○	
	府中府川3号線歩行空間活用社会実験	○	・空き家活用事業で空き家が店舗に活用され来訪者が生まれたことで、回遊を促すきっかけに間接的に貢献したと考え『○』	○	・空き家活用事業で空き家が店舗に活用され来訪者が生まれたことで、回遊を促し、拠点施設への立ち寄りのきっかけに間接的に貢献したと考え『○』
	瀬戸内ファクトリービュー事業	○		○	
	コワーキング・レンタルオフィス開設	○		○	
	古民家ホテル事業	○		○	
店舗リニューアル事業	○		○		
レンタサイクル事業	○		○		
ネウボラ拠点整備事業	○		○		
賑わい機能整備事業	○		○		

※指標改善への貢献度
 ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
 ○:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
 △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
 —:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	歩行者計測時以降に完成するアクセス道路や施設を含め、周辺拠点施設等との連携を強め、区域内の人々の回遊性を高める。	今後も中心市街地の拠点として、市民をはじめとする様々な関係者と連携した施設運営やイベントを継続的に実施する。
-------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1			指標3			指標4		
指標名		通りの歩行者数(休日)			ぐるっとバス(市内循環バス)の平均利用者数			道の駅来場者数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路:(市)横井府中学園線整備事業	x	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備や、図書館までのアクセス道路である横井府中学園線が歩行者計測時に完成しておらず、指標への影響はまだ確認できないため『x』	x	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が集計期間に完成しておらず、指標への影響はまだ確認できないため『x』	—	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が集計期間に完成しておらず、指標への影響はまだ確認できないため『x』	—	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が集計期間に完成しておらず、指標への影響はまだ確認できないため『x』	—
	道路:(市)土生元町線整備事業	△		—		△		△		
	公園:こどもの国公園整備事業	△		△		△		△		
	地域生活基盤施設:こどもの国河川敷整備事業	x		x		x		x		
	地域生活基盤施設:道の駅広場整備事業	△		△		△		△		
	地域生活基盤施設:図書館広場整備事業	x		x		x		x		
	地域生活基盤施設:図書館駐車場整備事業	x	・土生元町線など調査地点の周辺における歩道の整備により安全安心な歩行者ネットワークが整備されたことで、指標の改善に貢献したと考え『△』	x	・府中駅停車場線など歩道の整備により安全安心な歩行者ネットワークが整備されたことで、指標の改善に貢献したと考え『△』	x	・「SPINGLE ウェルネスセンター(健康増進施設整備事業)」や「i-coreFUCHU(ネウボラ拠点・賑わい機能整備事業)」が開業したことで、区域内の魅力を高め、道の駅への立ち寄りのきっかけに寄与し、指標の改善に貢献したと考え『△』	x	・「SPINGLE ウェルネスセンター(健康増進施設整備事業)」や「i-coreFUCHU(ネウボラ拠点・賑わい機能整備事業)」が開業したことで、区域内の魅力を高め、道の駅への立ち寄りのきっかけに寄与し、指標の改善に貢献したと考え『△』	x
	地域生活基盤施設:文化センター耐震改修事業	△		△		△		△		
提案事業	高質空間形成施設:府中8号線外整備事業	△		△		△		△		
	地域創造支援事業:健康増進施設整備事業 事業活用調査:事後評価	△ —		△ —		△ —		△ —		△ —
関連事業	府中駅停車場線歩道整備	△	・「SPINGLE ウェルネスセンター(健康増進施設整備事業)」や「i-coreFUCHU(ネウボラ拠点・賑わい機能整備事業)」が開業したことで来訪者が増加し、回遊を促すきっかけに寄与したと考え『△』	△	・「ボムこみち(府中8号線外整備事業)」や「複合遊具(こどもの国公園整備事業)」の完成、「SPINGLE ウェルネスセンター(健康増進施設整備事業)」が開業したことで、区域内の往来を促進させ、指標の改善に貢献したと考え『△』	—	・空き家活用事業で空き家が店舗に利活用され来訪者が生まれたことで、回遊を促すきっかけに寄与したと考え『△』	—	・空き家活用事業で空き家が店舗に利活用され来訪者が生まれたことで、回遊を促し、道の駅立ち寄りのきっかけに寄与したと考え『△』	—
	かわまちづくり計画策定	△		△		△		△		
	まちなか駐車場整備事業	△		△		△		△		
	こどもの国公園トイレ学生コンペ事業	△		△		△		△		
	恋しき保存活用計画策定	△		△		△		△		
	史跡備後国府整備基本計画策定	—		—		—		—		
	文化財普及活動事業	—		—		—		—		
	健康増進施設整備検討調査	△	・空き家活用事業で空き家が店舗に利活用され来訪者が生まれたことで、回遊を促すきっかけに寄与したと考え『△』	△	・空き家活用事業で空き家が店舗に利活用され来訪者が生まれたことで、回遊を促すきっかけに寄与したと考え『△』	△	・空き家活用事業で空き家が店舗に利活用され来訪者が生まれたことで、回遊を促し、道の駅立ち寄りのきっかけに寄与したと考え『△』	△	・空き家活用事業で空き家が店舗に利活用され来訪者が生まれたことで、回遊を促し、道の駅立ち寄りのきっかけに寄与したと考え『△』	△
	空き家活用事業	△		△		△		△		
	府中駅南北連絡道路等検討調査	△		△		△		△		
	まちなか活性化支援事業	△		△		△		△		
	府中府川3号線歩行空間活用社会実験	△		△		△		△		
	瀬戸内ファクトリービュー事業	△		△		△		△		
	コワーキング・レンタルオフィス開設	△		△		△		△		
	古民家ホテル事業	△		△		△		△		
	店舗リニューアル事業	△		△		△		△		
レンタサイクル事業	△		△		△		△			
ネウボラ拠点整備事業	△		△		△		△			
賑わい機能整備事業	△		△		△		△			

※目標未達成への影響度
x: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
△: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたとと思われる。
—: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。
※要因の分類
分類Ⅰ: 内的な要因で、予見可能な要因。
分類Ⅱ: 外的な要因で、予見可能な要因。
分類Ⅲ: 外的な要因で、予見不可能な要因。
分類Ⅳ: 内的な要因で、予見不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	歩行者計測時に降に完成するアクセス道路や施設を含め、周辺拠点施設等との連携を強め、区域内の人々の回遊性を高める。	公共交通の利便性向上のため、随時運行ルートの再編やダイヤの見直し等を行う。	来訪者等のまちなか回遊を促進するため、観光機能の更なる充実や移動環境の強化などを推進する。
------------------	--	---------------------------------------	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内意見照会の実施	企画財政課、地域づくり課、スポーツ振興課、子育て応援課、商工観光課、土木課、教育政策課	令和8年3月	都市デザイン課(都市再生整備計画主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
生活環境の更なる向上	・「こどもの国」内の複合遊具整備や「SPINGLE ウェルネスセンター」が開業したことで、拠点施設の魅力が向上した。	・拠点施設である図書館の広場・駐車場整備が途中段階であるため、引き続き整備を進める必要がある。 ・本市内人口は減少し、それに伴い空き家が増加傾向にあり、引き続き、移住・定住の促進や空き家の利活用に取り組んでいく必要がある。	・本市の中心市街地では、空き家に加え、狭小な宅地や狭い道路が点在しており、不動産価値向上に向けた区画再編が必要である。
人々の交流・活動の場の創出	・NPO法人府中ノアンテナなどの民間団体によって、イベントの企画や情報発信が行われ、賑わいの向上につながった。 ・「i-coreFUCHU」が整備されたことで、子育て世代を中心に幅広い世代が施設やイベントを通して交流が図られた。	・道の駅来場者数は、コロナ禍以後、徐々に回復しているものの、コロナ禍以前の水準まで戻っていないため、引き続き拠点・観光施設として利用を促す必要がある。 ・商店街等で空き店舗は依然として多く、中心市街地活性化に向けて対策が必要である。	・これまで駅南エリアを中心に施設整備を行ってきたが、個々の施設運営だけでなく、各施設の連携や活用を官民一体のエリアマネジメント的取組として行い、賑わいの波及に努める必要がある。
地区内の回遊性に向上	・拠点施設周辺における歩道改良等により安全安心な歩行空間が整った。 ・拠点施設が整備されたことで来訪者が増加し、回遊を促すきっかけとなった。	・府中駅の北側と南側が分断されており、回遊性向上のため、交通結節点として駅機能の強化が必要である。	・バスの利用者数は、コロナ禍以後、徐々に回復しているものの、コロナ禍以前の水準まで戻っておらず、市民の多くが自家用車利用であることが考えられ、区域内の回遊性を促すためにも、公共交通の利用促進に取り組んでいく必要がある。

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	拠点施設の利用促進	今後も拠点施設の利用促進に向けて、各種企画や使いやすい施設運営に取り組む。	・拠点施設の利用促進に向けた企画・運営の継続・充実 ・公共施設の効率的な維持運用や、都市機能及び生活利便施設のさらなる集積
	官民連携による地域の活性化	日常的に参加できるイベント等を開催し、市の内外から訪れた人々が周辺エリアにも立ち寄ることで、相乗的な市内の賑わい創出・活性化を図る。	・施設間や商店街等と連携したイベント等による賑わい創出
	周辺拠点施設との連携強化	図書館やこどもの国、ジューベックホール(文化センター)等の市周辺施設との連携を高める。	・施設間や商店街等と連携したイベント等による賑わい創出(再掲) ・施設相互の情報発信

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	図書館広場・駐車場整備の実施	都市再生整備計画(府中地区)に挙げている事業を着実に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館広場整備事業 ・図書館駐車場整備事業
	空き家の利活用の促進	利活用が可能な空き家について、補助制度の活用や空き家バンク制度の周知、さらには空き家活用・流通に伴うメリットの提示などを通じて、その利活用を積極的に推進していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク事業
	移住定住の促進	移住定住への発展の可能性がある関係人口の創出・活性化のための取組を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・移住定住促進事業 ・まちなか居住の推進
	区画再編の促進	空き家や空き地などの未利用ストックについて、隣接地や前面道路と併せて区画再編を行い、土地形状を改善することで、良好な居住環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・広島型ランドバンク事業 ・狭あい道路整備事業
	府中市らしい情報発信	県内外から本市を訪問先として選んでもらうため、本市独自の観光資源の活用、情報発信を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドの呼び込み・観光スポットの連携 ・施設間や商店街等と連携したイベント等による賑わい創出(再掲) ・施設相互の情報発信(再掲) ・道の駅北館チャレンジショップの活用 ・にぎわい広場(道の駅北)の活用
	地域活性化に向けた空き店舗等の利活用促進	市内における空き家の活用ニーズを的確に把握し、必要に応じて転用や再活用に向けた支援策の検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク事業(再掲)
	府中駅を中心としたまちの魅力向上	府中駅の整備を進めるとともに、駅周辺の公共施設等の利活用を促進し、まちづくりを担う人材を育成することで、市民と一体となってまちの魅力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設間や商店街等と連携したイベント等による賑わい創出(再掲) ・「i-coreFUCHU」による貸出スペース(屋内外)予約受付及び周辺エリアのコーディネート支援
	府中駅南北の連携強化	一体的な賑わいを創出するため、府中駅周辺の施設整備を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・府中駅北口周辺の整備
公共交通の利用促進	地域での生活に応じた公共交通機関の整備やターゲットに合わせた実効性の高い利用促進策を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市地域公共交通活性化協議会を主体とした運行ルート・ダイヤ等の変更 ・府中市地域公共交通計画に基づく施策の推進(路線バスのPR、施設利用者に対する運賃割引) 	

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
				年度		年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	通りの歩行者数(休日)	人/日	1,699	R1	2,600	R7	確定	2,140	△	あり	●	令和9年10月	従前値と同様の方法で歩行者等通行量調査を実施する。	-
							見込み			●	なし			
指標2	通りの歩行者数(平日)	人/日	1,971	R1	2,300	R7	確定	2,417	○	あり	-	令和9年10月	従前値と同様の方法で歩行者等通行量調査を実施する。	-
							見込み			●	なし			
指標3	ぐるっとバス(市内循環バス)の平均利用者数	人/日	93	R1	132	R7	確定	80	×	あり	-	令和9年4月	令和8年度の「府中ぐるっとバス」の平均利用者数を担当課から提供を受け、確定値とする。	-
							見込み			●	なし			
指標4	道の駅の来場者数	人/年	143,024	R1	188,000	R7	確定	155,824	△	あり	-	令和9年4月	令和8年度の道の駅「びんご府中」のレジ通過客数を担当課から提供を受け、確定値とする。	-
							見込み			●	なし			
指標5	拠点施設(賑わい施設)利用者数	人/年	272,510	R1	310,000	R7	確定	331,951	○	あり	-	令和9年4月	令和8年度の図書館利用者(貸出数)、ジープックホール(文化センター)利用者数(各部屋貸出履歴からの推計数)、TAM(延べ利用者数)、こどもの国(児童館)利用者数、市民プール利用者数の合計を担当課から提供を受け、確定値とする。	-
							見込み			●	なし			
その他の数値指標1	なし						確定							
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	特になし	目標値を適切に設定するためには、それまでの人口動向などを踏まえ、設定を行う必要がある。
	うまくいかなかった点	指標1:通りの歩行者数(休日)について、目標値設定が過大であったことが考えられる。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	若者、女性、子育て世代を中心に幅広い世代が憩い、学び、挑戦する中で新しい発想や出会いを創出するというコンセプトのもと、市運営による「i-coreFUCHU」が令和3年7月に設立した。現在では、子育て支援施設、学習スペース、イベント空間、カフェなどが整備され、幅広い世代が過ごせる府中市の新たな交流拠点として市民に利用されている。	市民がまちづくりに関わることができる機会をできるだけ提供し、市民が主体となったまちづくり活動や官民連携の取組みにつなげることが望まれる。
	うまくいかなかった点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	府中市公式ホームページに事後評価原案を掲載	令和8年3月30日 ～令和8年4月13日	令和8年3月30日 ～令和8年4月13日	1.窓口 2.郵送 3.ファックス 4.Eメール	都市デザイン課(都市再生整備計画主管課)
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	窓口において事後評価原案の閲覧を実施	令和8年3月30日 ～令和8年4月13日	令和8年3月30日 ～令和8年4月13日		

住民の意見	<p>■都市再生整備計画の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設「こどもの国河川敷整備事業」については、今後、親水公園を再整備する際に、河道断面による隣接地域への阻害影響について、治水を最優先とした考え方により、解消・解決を図ってほしい。 ・地域生活基盤施設「府中8号線外整備事業」について、青く舗装した路面の一部が剥離しているため、定期的に撤去または補修をすると良い。 ・関連事業「かわまちづくり計画」を策定した時期および担当部署はどこか。 <p>■成果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族も「ぐるっとバス」を利用しており助かっている。より多くの利用により運行が維持されることを期待する。排気ガスが苦手なため、EVバスの良さを実感している。 <p>■実施過程の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連事業「こどもの国公園トイレ学生コンペ事業」を基に整備されたトイレについて、子どもの手や足を洗うことができる蛇口が設けられており、実際に利用された若いお母さんが大変喜んでいました。子育て世代に配慮した設備であり、非常に有益である。また、多目的トイレはオストメイト対応となっており、使用時間に一定の制限はあるものの、実用性の高い設備であるため、必要とされる方に確実に存在が伝わるよう、市内のオストメイト対応トイレの設置数や設置場所をまとめた形で、広報を行ってはどうか。以前、市議から「トイレの壁にちびっ子が絵を描いたらどうか」という意見が出されたことがあったが、このトイレは外観を含めて総合的にデザインされた建築作品であり、学生コンペにおいて最優秀賞を受賞したものである。その価値を尊重し、今後も現在の外観のまま維持していただきたい。 ・i-coreFUCHU(いこーれふちゅう)はできて良かった。一方、同じく2階にあるその他店舗等との相乗効果による来訪促進も大きな要因であると認識している。今後も、これらテナントの入居が継続されるよう配慮を求める。 <p>■今後のまちづくり方策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TAMIについて、駅前通り(中須西町線)からの出入が可能となり、駐車時の負担が軽減してありがたい。新しく整備される図書館駐車場は、TAMI利用者も駐車して問題ないか。 ・空き家バンク事業について、引き続き、新規物件が掲載され成約数がより増えてほしい。
-------	---

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	広島大学教授 田中貴宏	令和8年4月28日	都市デザイン課(都市再生整備計画主管課)	府中市都市再生整備計画事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	府中商工会議所 専務理事 若井 紳壮 広島県土木建築局都市計画課 課長 梶村 隆穂				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ■指標1:通りの歩行者数(休日) ・今後、歩行者通行量調査の時期は、拠点施設の休館日を避けて設定する必要がある。 ・より多くの歩行者数を計測可能な調査地点を検討するとよい。 ■指標2:通りの歩行者数(平日) ・「i-coreFUCHU」により、中高生の滞在場所を創出したことで、歩行者数増加に寄与したことは高く評価できる。 ■指標1:通りの歩行者数(休日)、指標2:通りの歩行者数(平日) ・本調査は事業効果を把握する上で重要であり、毎年実施されていることは高く評価できる。 ・歩行者の世代構成(高齢者や学生など)がわかる調査ができると良い。 ■指標3:ぐるっとバス(市内循環バス)の平均利用者数 ・ぐるっとバスの運行ルートと、課題にある「人々の交流・活動の場の創出」や「地区内の周遊性の向上」の関連性がわかる表現があると良い。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
	その他	・ハード整備に加え、社会実験のようなソフト面の取組を段階的に進めている点が評価でき、今後も引き続き検討が望まれる。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、周辺施設が相互に連携することで、各施設の利用者数及びぐるっとバスの利用者数の増加が期待されることを念頭に、施策を検討する必要がある。 ・まちづくりの担い手育成に関する記載があると良い。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・課題:「地区内の『周遊』性の向上」、目標:「『回遊』と賑わいを生む、質の高い道路空間の確保」としているが、「周遊」は範囲が広く捉えられやすいため、徒歩圏を想起しやすい「回遊」に修正するのが望ましい。 ・立地適正化計画の改定を踏まえた内容を加えられると良い。 	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
-	-	-

有識者の意見	-
--------	---